

オノオレカンバ *Betula schmidtii* Regel

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 3、総点 13。岩山の自然植生を特徴づける樹木で、全国的に希少であり、愛知県は分布域の南限にあたる。

【形態】

落葉性の高木。幹は高さ 15m、直径 50cm に達する。樹皮は黒褐色～暗灰色で厚く、亀甲状に割れる。枝には長枝と短枝がある。葉は長枝には互生、短枝には 2 枚が対をなしてつき、葉柄は長さ 5～10mm、葉身は広卵形～卵状楕円形、長さ 4～9cm、幅 3～6cm、先端は鋭尖頭、基部は円形またはやや広くさび形、辺縁には不ぞろいな鋸歯がある。葉の表面は深緑色でほぼ無毛、裏面は淡緑色で脈上に白色の長毛がある。花期は 5 月、雄花序は枝端の葉腋につき、下垂して長さ 4～6cm になり、雌花序は短枝に頂生する。果穂は秋に熟し、果実は卵状楕円形、扁平でほとんど翼がない。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (芹沢 82073, 2007-8-25)、2 豊根 (小林 53108, 1994-8-7)。天竜川沿いの岩尾根や急傾斜地に点在する。

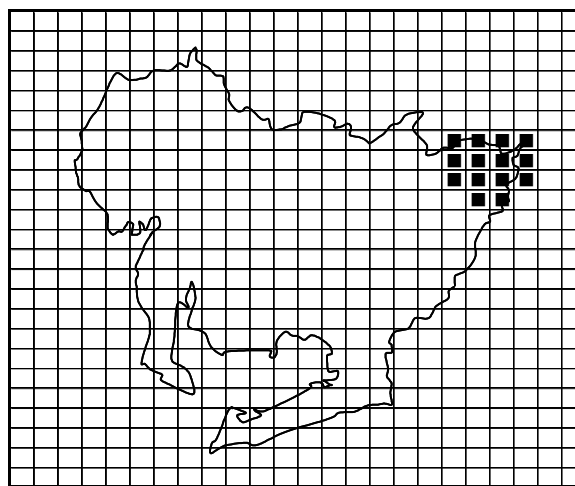
【国内の分布】

本州 (中部地方以北) の、主として太平洋側に分布する。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、ウスリー。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

岩礫地や土壌の浅い尾根などに生育することが多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

範囲は狭いが、小群落が点在する。急峻な地形の場所に生育しているため、不用意な伐採がなければ、当面は存続するものと思われる。

【保全上の留意点】

希少な樹木であることを認識する必要がある。遊歩道の整備などの際には、特に注意が必要である。

【特記事項】

材がかたく斧が折れるほどであるというので、オノオレカンバと呼ばれる。

【関連文献】

保木本Ⅱ p.295, 平木本Ⅰ p.59, 平新版 3 p.114, SOS 旧版 p.45.